

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	グループホームかほく		
所在地	山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1		
自己評価作成日	平成30年8月20日	開設年月日	平成16年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは地域の中で、その人らしく安心して、楽しく笑顔で生活できる、温かみのあるホームを目指します」というグループホームかほくの理念に基づき、入居者一人ひとりが持っている力を発揮でき、伸び伸びとその人らしく生活していけるように心掛け支援しています。そのために、職員が入居者にとって支援者であると同時に、一人ひとりの人生の伴走者であるという意識を持って日々の業務を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成30年9月21日	評価結果決定日	平成 30年 10月 16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「かほくでほっとする暮らし」が出来るよう職員全員で温かく支援しています。ホールではお茶飲みながらのんびり過ごし、生き生きとした表情で活動に取り組み、おなかいっぱい食事を楽しみ、入浴でサッパリとした気分できれいになり、夜はぐっすり休んでいます。傍にはいつも寄り添う職員がおり、利用者の思いをしっかりと受け止め、全員で研鑽を積みながら地域の中でその人らしく安心して安全に暮らして行けるよう取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に根ざした事業所の理念とユニットの心得を作成し、毎朝の申送り時に唱和し、管理者と職員とで理念の共有を図り、理念に沿ったケアを実践している	一人ひとりの思いに寄り添い、皆が笑顔で元気に和気あいあいと生活出来るよう職員全員が理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	6月から11月まで地域のロータリーの清掃に、入居者と職員が一緒に参加している。地域のボランティアを受け入れ、その交流を通じ、地域と入居者の繋がりを維持できるように努めている。	広報紙「どんがだより」で事業所の取り組みや利用者の暮らしの様子を地域に発信している。ロータリー花壇の草むしりや祭りでは神社参拝するなど地域へ出掛け、また小・中学生の訪問やボランティアによる毎週の書道教室、歌や踊りを通して利用者に明るい表情が生まれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行しているどんが便りを地域の方からも回覧してもらうことで、地域の人々から認知症の理解を深めてもらい、地域の人々が認知症の受容できるように心掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、町内会長、民生委員、ご家族代表、入居者代表の参加で2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。その際、入居者様の状況・活動報告を行い、参加者からは意見を聞き、そこで得た意見を事業所の活動に活かしている。	課題となっていた会議内容の充実に取り組み活性化を図っている。その時々々のテーマを提供し意見交換することで、緊急時対応のマニュアル見直しや地域文化祭での「グループホームかほくの取り組み」発表などに繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の運営や介護保険に関して相談した際には、町の担当者からは適切な助言と返答を頂いている。また、介護保険サービス調整会議に出席した際には、地域に関する様々な情報を共有している。	運営推進会議の中で事業所取り組みの理解を得ると共に情報やアドバイスを随時もらっている。また介護関係者が集う町の介護保険サービス調整会議では出席メンバーと交流して気づきをサービスに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、毎月1回の職員会議の際に状況を確認し拘束のないケアを実践している。身体拘束についての外部研修に参加し、事業所内で勉強会を行い、身体拘束の弊害について理解を深める機会を設けている。	外部研修会や毎月の職員会議、内部研修会で身体拘束重要項目について学び、その弊害を理解している。言葉の掛け方や転倒防止、離設傾向のある方への対処など穏やかに安心して暮らせるように職員全員で身体拘束のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について理解を深めるため、事業所内外の研修に参加している。新規入居の際には職員間で、家庭での虐待の有無について情報共有を行っている。事業所内においては、入居者の生活状況や身体状況について毎日の申送り時に確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記の事業・制度を利用している入居者がいないため、そのことについて実際に知る機会が事業所内ではほとんどない。事業所の内部研修を行い、知識を得る機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には専門用語は出来る限り使わず丁寧で分かりやすい説明を行い、疑問点などは随時返答している。解約・改定の際にも丁寧な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には入居者の様子をご家族様に伝えると同時に、意見を聞き施設の運営に反映させている。地域の相談窓口の紹介や、玄関の「意見箱」の設置など、意見を出しやすい施設作りを行っている。家族総会、お茶会などの行事においても、ご家族から意見を聞いている。	毎月お便りを届け、行事や食事時の写真、コメントで一人ひとりの生活の様子を家族等に知らせている。面会や夏祭り・いも煮会等の行事時、家族総会での懇談を通して意見要望を聞き取り運営に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、管理者は職員から意見を聞き施設運営に反映させている。管理者は月1回法人のブロック会議に出席し、自事業所で出た意見・提案をブロック長を通じて代表者に届くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況、体調面、意向の確認などを定期的に行っている。介護支援員などの資格取得などのサポートを積極的に行っている。毎年の昇給等で、職員の向上心維持に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回以上、職員一人ひとりが外部の研修に参加する機会を設けている。外部の研修に参加することで職員が自己研鑽を行い、終了後に他の職員に研修発表をすることで、事業所全体のレベルアップを図っている。	職責、経験に応じて年1回以上外部研修に参加し、復命書と共に職員会議で報告している。またその報告を聞いての感想を書いてもらい全員のレベルアップを図っている。毎月の勉強会や法人事業所合同研修で、職員育成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>町の介護保険サービス調整会議、グループホーム連絡協議会への参加、研修への参加等により、同業者との交流を行っている。H30年度には他の事業所を通じ、海外の視察団から事業所の見学に来てもらい、相互にサービスについて学ぶ機会を設けた。</p>	<p>同業者や介護関係者が集う会議には積極的に参加し、交流を通して情報交換をしながらサービス向上に取り組んでいる。特に本年度は台湾の病院関係者が現地でのグループホーム設立研修のため数度にわたる視察訪問があり、交流を通して自らの介護サービスの理解を深めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込み時にご本人とご家族から聞き取りを行い、担当ケアマネから得た情報と総合することで、入居時の不安を軽減し、少しでも安心できる対応が取れるように努めている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込み時にご家族から話を伺い、不安や悩みについて聞き取りを行い、今後の具体的な支援について共に考え、良好な関係を構築できるように努めている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込み時から行う聞き取りを通じ、必要としている支援を見極め、入居時に他のサービスも必要とされる場合には、その情報提供を行い、柔軟な対応ができるように心掛けている。</p>			
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの入居者のできることを考慮しながら、入居者に洗濯物畳み・テーブル拭きなど、その方に応じた家事作業を行ってもらい、共に生活しているという気持ちを持てるように努めている。</p>			
19		<p>○本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族、ご本人の気持ちに寄り添い、両方の意見を聞きながら良好な関係が築けるようにしている。また、ご家族に協力して頂き、可能であればご家族と本人の外出の機会等を設け、家族間の絆を保てるようにしている。</p>			
20		<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族様、知人、友人など面会時にはゆっくり過ごしてもらえ環境と雰囲気作りに努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の持っている力を発揮できるように声掛けを行い、その方に応じた家事作業を通じ、入居者間の和やかな関係作りに努めている。また、人の輪に入っていけないような入居者がいた場合には、職員が間に入り関係の橋渡しを行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設に入所した入居者に折を見て面会に行くなど、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望を随時聞いている。ご本人から意見を聞くことが困難な場合は、ご家族様からご本人についての話を聞き、ご家族の思いを生活の意向に反映させている。	日々の関わりの中で思いや意向を聞き、汲み取っている。その都度日誌や個人記録に記し、申し送りでも共有してケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から「人生の歩み」という、入居者の生活歴・趣味・嗜好等を記述する書面を提出してもらい、入居者の暮らしぶりの把握に役立てている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりがどのような状態で、どのように過ごしているか、介護記録に残し、申し送りで情報の共有化を行い、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化が見られた際、ご本人・ご家族から新たな希望があった際には、話し合いの機会を設け、入居者の現状に即したものとなるように、介護計画を変更している。	グループホームでの生活が自宅の暮らしの延長となり、利用者の思いや望んでいることを実現させたいと常に考えている。担当者を中心にケース会議で現状や変化、問題点を全員で検討し、見直しを行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が見つけた小さな気づきをできるかぎり漏らさないように記録し、申し送りを行い、ケース会議時に担当の職員から意見を出してもらい、ケアの実践に活かし、必要時には介護計画を見直し、変更している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回習字ボランティアの講師を地域から招き、入居者から習字を楽しんでもらっている。また、小学校や中学校のボランティア、踊りや歌などのボランティアなどを積極的に招き、入居者様との交流を図ると共に、日々の暮らしの充実を図っている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望の医療機関で受診できるように体制を整えている。その受診時には書面等での適切な情報提供を行い、必要時には職員もご家族様と共に受診に同席している。	かかりつけ医への通院は家族等の協力を得て行い、希望者は内科・歯科の訪問診療を受けている。看護師による定期的な巡回があり、健康面へのアドバイスや緊急時の指示をもらい適切な医療受診に繋げている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師巡回の際、入居者様の身体・健康状況を報告・相談し、適切なアドバイスを得ている。また、入居者の体調不良時にも看護師に相談し、助言を貰い、必要時には迅速な受診対応に努めている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、医療機関・ご家族と密に連絡を取り、情報の共有化を図ると共に安心して入院治療が出来るように努めている。近隣の病院関係者とは、日頃から密接な関わりを持つように心掛け、相互の関係作りに努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化した場合の指針をご家族様に説明し同意を得ている。ご家族様の希望があれば、医師・医療機関と協力し看取りを実践する。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に家族等に事業所で出来ることを説明している。職員も研修を重ね、家族等の意向を確認しながら関係機関と連携して希望に添えるように取り組んでいる。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での心肺蘇生の研修に年に1回必ず参加し、入居者の急変の際には、適切に対応できるように努めている。また、事業所内でも応急手当、初期対応のマニュアルを整備し、常日頃から対応できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署職員立会いのもとで、災害・避難訓練を行い、安全な避難方法等の助言を頂いている。町内会との連携を取り、緊急時の協力体制の構築に努めている。	消防署の協力を得た避難訓練を隣接する同法人のデイサービスと合同で実施しており、町内会とは運営推進会議等で話し合い協力体制を構築している。災害・緊急時の備蓄を行い、心肺蘇生・AED研修は職員全員参加で毎年実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないように配慮しながら、笑顔で爽やかな対応を行っている。	特に羞恥心を伴うことには誇りやプライバシーを損ねないような対応や声掛けに配慮している。職員は毎月の個人目標にも掲げ自己評価で確認している。家事全般が得意な利用者が多く意欲的に取り組み日課となり、満足した笑顔と穏やかな日常生活に繋がっている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望や思いをじっくりと聞き、希望や思いに沿った支援を行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、出来る限りその人に合った暮らしを送れるように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合った服を用意してもらっている。また出張で来てくれる理容師さんから、髪型についての希望を聞いてもらい散髪してもらっている。日々、気持ちよく過ごせるよう整容、身だしなみを整えている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みを考慮し、時には代替の食品を用意するなど対応している。入居者からテーブル拭き、皿拭きなど本人の力に応じた家事作業をもらっている。月1回のバイキング食、行事食などを提供している。	入居時に持参したマイ茶碗・カップ・箸を使用し、おかずのみ配食サービスを利用してご飯・汁物・代替食・刻み等の食事形態には事業所で対応している。利用者の出来る事への手伝い参加があり、毎月のバイキング・行事食・外食・手作りおやつなど食事を楽しみにしており、ほとんどの方が完食している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、刻み食、栄養補助食品の提供を行い、必要な栄養が摂れるように工夫している。水分量に関しては、声掛けを行うとともに、小まめに水分補給を行い、必要な水分が確保できるよう支援している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し口腔状態の確認を行っている。日常的な口腔ケアでは、自分で行うのが難しい方への歯磨きの補助を行うなど、その人に応じた支援を実践している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを介護記録などを用いて把握と情報共有を行った上で、トイレの声掛けをすることで排泄の失敗を減らす努力をしている。安易なおむつの使用はせず、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄支援は生活習慣から一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けて時間を見計らい声掛け誘導するなどトイレでの排泄を大切にしている。起床後の牛乳提供や毎日の体操を習慣にして便秘予防に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方について担当医師に相談するとともに、リハビリ体操や身体を動かすレクなど運動をし、便秘の予防に取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望を聞きながら入浴を行い、出来る限り希望の時間に入れるように声掛けを行っている。	身体機能によっては隣接するデイサービスの特殊浴槽の利用も可能で、午前中にはほとんどの方が入浴している。個別の希望やこれまでの習慣に合わせてながら好みの入浴剤などを使用し、ゆっくりとくつろいでもらえるよう職員は安全に配慮しながら入浴支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限りご本人の休みたい時間、眠りたい時間に合わせ、休息と睡眠をとってもらうとともに、寝具の清潔保持に努め、安眠できるように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が薬の処方内容を理解・把握すると同時に、薬の変更があった際はその情報の共有化を図り、介護記録を通じ、服薬後の状態の変化について記録を行い、次の受診時の情報提供を行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力に合わせ家事作業をおこなってもらっている。家事作業が自分の仕事であると自覚し、毎日の楽しみになっている。職員や他の利用者から「ありがとう」と感謝されることがやりに繋がっている様子も見受けられる。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て外出の機会を設けている。希望にも出来る限り応じ、買い物等を目的に、職員が外出の支援を行っている。	四季に応じたドライブなどたくさんの外出行事を計画し、車いす利用の方も一緒に出掛けている。また家族等との外食なども利用者の楽しみとなっている。近隣への散歩・行事参加や神社への初詣では恒例となっており、地域との関係性を大事にしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理されている方もおり、外出時には好きなものを買えるように支援している。自己管理が難しい方に関しては、事務所で金庫にお金を預かり、入居者の嗜好品や日常用品を、職員とともに購入する機会を設けている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で話しがしたいと希望があった際には、電話でご家族と話しをしてもらうなど対応を実践している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の装飾などを、入居者と職員が共に製作し、季節感が感じられるような共有スペース作りを行い、自分たちで暮らす場所を作るんだという思いを育み、心地よい居住環境となるように支援している。	ホールには利用者と職員と一緒に制作した季節毎の作品を掲示し、夏場には窓際にグリーンカーテンを設置して室内からも季節感を味わってもらえるよう工夫している。利用者はユニット間を自由に行き来し、また共用空間を使った秋の運動会は隣接するデイサービスも参加し、大変盛り上がり毎年実施している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に、テーブル席と、テレビの前のソファ席を設け、目的に応じた空間作りに配慮している。共有スペースであっても、ご本人がテレビを見なければソファへ行くなど、ご本人の希望で行動できる空間作りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族の協力のもと、使い慣れた家具・テレビを持ってきて頂き、居室にて使用してもらうなど、ご本人の暮らす場所作りに心掛けている。	事業所での生活は家庭生活の延長のようにと捉え、自宅との環境に近づくように家具などを配置し、畳コーナーなども設けている。清掃や衣替えなどは利用者と担当職員が一緒にし、落ち着いて安心して過ごせるよう支援している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人とご家族の希望に応じ、居室には名前の書かれた表札を掛けている。そのことで自分の暮らす場所であるとの愛着を持てる支援を行っている。安全に配慮するため、清潔で整頓された環境作りを行っている。		